

妊娠初期の出血と流産について



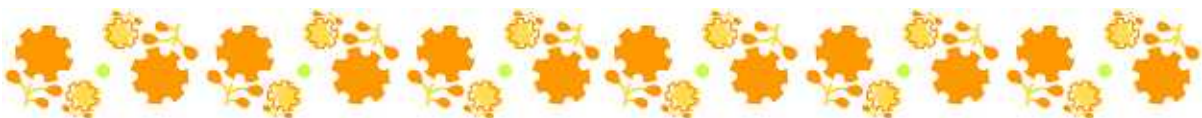
妊娠初期に超音波検査で子宮の中に赤ちゃんが育つ袋（胎嚢）や小さな赤ちゃん（胎芽といいます）が見える時期に、少量の出血を起こすことは約30%の妊婦さんが経験することといわれています。この時期、絨毛という赤ちゃん側の細胞が、子宮内膜にあるお母さんの細い血管を破って入り込んでいくことで、胎盤がつくられ、赤ちゃんはお母さんからの栄養供給を受けることが可能になっていきます。妊娠初期の出血は、胎盤ができあがる途中の子宮内膜の血管の破綻によって起こると考えられており、出血が直接流産に結びつくことは稀です。事実、この時期に出血した妊婦さんと出血しなかった妊婦さんを比較しても、流産する確率は変わらないといわれています。

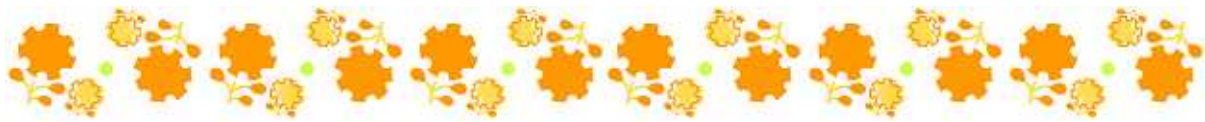
しかし、妊娠初期には流産が多いということも事実で、流産する確率は全妊娠の約15%といわれています。初期の流産の原因はほとんどが胎児側の原因で受精卵の異常によって起こります。このことは特別なことではなく、全妊娠の15%という頻度で誰にでも起こることです。これらの異常は精子と卵子が受精した時点で決まることで、現代の医療をもってしてもこの流産を治療することは不可能です。切迫流産という病名があり、これは妊娠初期に出血・下腹痛がある場合に使用されます。しかし、受精卵に異常があって流産する妊娠に子宮収縮抑制剤や止血剤などを使用しても流産が予防できるものではないことはおわかりいただけだと思います。大切なことは、出血の有無にかかわらず胎芽（赤ちゃん）が正常に発育しているかどうかです。胎芽（赤ちゃん）が正常に発育していれば、例え少量の出血があっても妊娠初期に流産することはほとんどありません。

当院では、以上のような理由で妊娠初期の少量の出血や軽い下腹部痛に対しては、自然の経過を観察し、胎芽が正常に発育しているかどうかを見守ることにしています（御自宅での安静）。

ただし、症状が強い場合やまれに出血した血液の一部が子宮内に貯まった状態（絨毛膜下血腫といいます）になることがあり、この貯留した血液の量が多いときには後に流産（後期流産）の原因になることがあり、治療が必要となる場合があります。また、出血が月経時より多く、強い痛みをともなう場合には流産が始まっていて流産手術（子宮内容除去術）が大事な事もありますので、外来受診して頂く必要があります。また、子宮のなかに赤ちゃんが育つ袋（胎嚢）が確認されていない場合の強い下腹部痛は子宮外妊娠の可能性もありますので、同じく外来受診していただくかなければいけません。

出血があったとき、外来が終わっている時間外や夜間の場合には、以下の頁をご参照下さい。





出血があったとき、外来が終わっている時間外や夜間の場合には
下記に従ってください

当てはまる方を塗りつぶして下さい



① 子宮の中に赤ちゃんが育つ袋(胎嚢)が確認されていますか？	はい	いいえ
② 出血の量は生理の多いときより、もっと多いですか？	はい	いいえ
③ 生理痛より強い下腹部の痛みがありますか？	はい	いいえ

結 **果**

↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
B	A	A	A	B	B	C	C

A 緊急を要する症状
ではないようです

症状がおさまらなければ、
外来があくのを待って受診
しましょう。

B 緊急を要する可能性が
あるかもしれません

病院に電話して
相談して下さい。

C 緊急の処置を要する
可能性があります

病院に電話して
受診して下さい。



わかば・産婦人科
〒675-1367 兵庫県小野市敷地町1500-5
TEL : 0794-62-6111 FAX : 0794-62-8158

